

(様式1) 平成 24 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201259		
法人名	有限会社黎明		
事業所名	グループホームありあけ		
所在地	兵庫県神戸市西区玉津町水谷1丁目11 - 21		
自己評価作成日	平成24年3月25日	評価結果市町村受理日	平成24年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1.入居者の自己意思・希望・人権を重視し、そして安全の確保を忘れない
- 2.家の次に居心地の良い所・家族の次に安心できる人として、家族との信頼関係を大切にする。
- 3.家族と共に地域と共に住み続けられる事を支援する。

以上のケアの姿勢と入居者が ゆっくり 楽しく 自分らしく 普通の当たり前の暮らしを支援します。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近代的な住宅に囲まれた、家庭的な雰囲気を感じられる施設である。年々住宅が増加し新しい地域住民とも交流が深まっている。トライやるウィークでの中学生の受け入れや介護職員基礎研修の実習生も受け入れている。地域への貢献と共に実習生の来訪で利用者との交流が楽しみの一つとなっている。また保育園の音楽会や中学の合奏会、神社のお祭りへ利用者と共に向いて地域との交流も活発に行われている。日々の生活の中で、職員はご利用者のコミュニケーションの中での意向や要望を尊重しその人らしく暮らせるよう支援している。日常的に近隣の公園や周辺の住宅街への散歩を継続し、適宜ドライブなども取り入れ気分転換が図れるように支援している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6 - 8 - 102		
訪問調査日	平成24年5月9日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域の中での生活をし、社会性を保ちながら入居者一人ひとりの自尊心を大切に生活している。又地域住民の協力を得て信頼関係を築く様にまずは気持ちよい対応を考えている。週3回基本理念を唱和して、迷ったら理念に返って考えている。</p>	<p>管理者より評価の項目を全職員へ理解してもらえるように説明を行い、項目について日々どのように取り組んでいるか記載し、前年度の自己評価との違いを確認し自己評価をまとめあげている。開設当初から地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ理念を謳い、日々の具体的なケアを話し合うケア会議の中で理念に立ち戻りながら理念を実際のケアの現場で具体化しながら理解と浸透を図っている。また、週3回は理念を唱和し浸透を図るようにも取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域のお祭り・正月は地域の神社へ初詣・保育園・中学校ノイベントの行事などに参加している。又トライアルウィーク・ボランティアなどの受入れは積極的に行なっている。</p>	<p>トライやるウィークでの中学生の実習受け入れや介護職員基礎研修の実習生の受け入れを行い、地域への貢献と共に実習生の来訪で利用者との交流が楽しみの一つとなっている。また「青ぞら保育園」の音楽会や玉津中学の合奏会、若宮神社のお祭りへの誘いがあり、利用者と共に外向いて地域との交流も活発に行われている。ピアノや折り紙・絵手紙の毎月のボランティア訪問やマンドリンや和太鼓・民謡・フラダンス・新舞踊・三味線・劇など年間を通してのボランティアの来訪で交流が深まっている。玄関前に掲示板を設け地域へ向けて防火訓練や行事の案内を掲示し地域との交流が行えるように取り組んでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進委員会で利用者の対応や状況を伝えている。又電話で介護保険の利用方法などを問い合わせの場合は理解している範囲で答えている。又、掲示板には、認知症の対応方法を掲げている。</p>		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎に開き入居者の状況・行事・サービス内容・家族の異見・神戸市の回覧などの報告を行い検討していただいている。又議事録を掲示している、会議の中で頂いた意見は職員と共有し改善すべき点はないかか再度見直しの話し合いをして、質の向上を図っている。</p>	<p>2カ月に1回開催している。民生委員、自治会長、近隣のグループホーム職員、地域包括支援センター職員、利用者家族に出席してもらい、身体状況を含めた入居者状況、行事報告、情報交換を行っている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>グループホームの連絡会が定期的に関われ、議題では、困っている事・迷っている事などを検討・対応を聞き参考にしてている。又空室の情報交換をして、万遍にサービスが受けられるように交流している。</p>	<p>3カ月に1回開催される市の担当者が出席している西区のグループホーム連絡会に出席し市の担当職員との指導や意見・情報交換を行い連携を図っている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎年、外部の研修に参加し、施設内実習を行う事で、更に意識しながらケアしていく事で、より良いケアへつなげていけるよう実践している。会議の時間の中で、研修報告も行い知識を共有できるようにしている。又、ありあけは、快の生活に向けての実践を心がけている。</p>	<p>神戸市の開催する権利擁護の研修へ毎年職員を出席させ、各ユニットで開催されるケア会議の中で研修の復講を行うだけでなく、日々のケアの中で研修の内容を反映させるように話し合いを行い研修の内容の浸透を図り、拘束をしないケアの徹底を図っている。</p>	
7	(6)	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修に参加して眼に見えるもだけが虐待ではなく見えない虐待・拘束もある事を学び、日常ケアの中で気づいていけるよう又そうする事で防止につながっていく事を職員で話し合った。高齢者が、快の生活を出るように、何時でも話し合う環境・整備と職員間の連携に努めている。</p>	<p>神戸市の開催する権利擁護の研修へ毎年職員を出席させ、研修の中での虐待防止についての内容をケア会議で復講を行い、日々のケアの中で研修の内容を反映させるようにしている。また、神戸市から配布・通達文を前職員で回覧し、虐待の範囲についての理解や防止への取り組みの徹底を図るように取り組んでいる。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修などに参加・又ケア会議で研修報告し話し合い制度を理解した上で活用していけるよう管理者・職員で取り組んでいる。	神戸市の開催する権利擁護の研修へ毎年職員を出席させ、権利擁護に関する制度への理解ができるようにしている。権利擁護の制度についてのパンフレットなどを全職員で回覧し事業所内の理解を深めるようにしている。制度の利用の必要性・希望がある利用者・家族の方には、制度が活用できるように関係機会への連絡を取るようになっている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は説明時に不安や疑問点の解消に努力している。家人のペースに合わせて都度確認をしながら納得して頂ける様に努めている。	利用の希望がある場合には、見学に来訪してもらい契約書・重要事項説明書の内容に触れて説明を行うようにしている。利用の意向が固まれば契約書・重要事項説明書を郵送し利用者・家族に内容を事前に確認してもらうようにしている。契約時には、契約書・重要事項説明書の内容の項目に沿って説明を行い、項目毎に不明点がないか確認を取りながら十分な納得を得た上で契約を行っている。契約書・重要事項説明書の内容に変更が生じた場合には、変更内容の説明を行い、変更部分の差し替え・同意を得るようにしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月の様子を報告する時に、何か意見・不満・苦情についてはスタッフ・管理者へも直接話せるように働きかけている。運営推進会議に家族も参加し、意見願いを伝えて頂いている。玄関にはご意見箱を設置している。家族から他の介護施設での不祥事を知り、直ぐに事業所がお詫び状が公表されていきました事と対応を教えて頂きました。	利用者の日々の様子がわかりやすいように通信の発行を行ったり、請求書の一部に短信用欄を設け利用者のご様子を記載しグループホームでの生活を把握してもらい意見や要望を出しやすいようにしている。家族には、毎月発送される請求書にいつでも意見や要望を出していただけるように明記するとともに、支払い時には、言葉かけを行っている。ケアプラン作成時やケアプラン見直し時にも利用者・家族からの意見や要望を聴取する機会となっている。聴取された意見や要望などは、施設介護経過記録に記録として残され、ケアプランの作成や見直しの参考にする他、サービスや運営に反映させるように取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議の時に話し合い又は検討して業務・処遇改善に反映させている。管理者の判断で反映される事もある。	各ユニットで行われるケア会議の中で職員は意見や提案を出す機会となっている。また、朝のミーティングの機会にも意見や提案が出され話し合い運営やサービスに反映させている。全ユニットで統一して反映させる必要がある場合には、回覧などを活用し全ユニットで統一して反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ユニットと関わりを持ち、勤務状況や環境の整備の必要性など現状を把握した上で検討している。職員の希望日数・希望の休み日は、出来る範囲に添う様にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が地域密着型サービスの重要性を知り、又経験・能力を把握し、段階を踏みながら研修へ参加の機会を確保している。内部研修・外部研修を受け報告する事やケア会議などで知識の共有を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での情報交換会に参加や西区の勉強会・講習にも参加呼びかけている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活様式や生活リズムなどを踏まえて不安なことを少しずつ解消又は軽減できるように努めている。日常の中でコミュニケーションを取り多くの言葉を受け止めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスをする前に家族からの要望・不安な事・困っている事などは訊ねて受け止めている。説明の中に必ず気になることはないか訊ね確認をしている。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を踏まえたサービスを考え又、十分なアセスメントと生活歴を把握した上で計画書を作成し、提供している。必ず評価を行い家族の意見を仰いでいる。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけをし、出来る事はして頂いている。日常生活にいろんなことを共感し利用者の気持ちなども察し支えあう関係になるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人と利用者がお互いにいたわりあえるように両方の立場から話し、相談・協力し合える関係を築いている。時には家族に感謝の言葉を表しながら処遇・対応などを助けてもらう事もある。		
20	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の年賀状のやり取りや電話などにて、なじみの関係が保てるように支援している。又ご本人の意向に添い必要であれば、介入し、来訪時にもゆっくりできる様配慮している。	知人や友人へ年賀状や電話でのやり取りを行えるように支援している。携帯電話を利用する利用者の方も増えており電話を利用して交流の継続ができるようにも支援している。日々関わる中で馴染みの人や場所・関係などが把握でき関係継続の必要性がある場合には、職員より家族等に働きかけ関係継続ができるように努めている。利用開始後にできたボランティアの方との顔馴染みの関係も継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を把握しており、その時に応じて楽しめるような配置を考慮している。又孤立しないように職員も介入して関わりを増やし、お互いに支えあう関係作りを努めている。(レクレーション・ゲーム・行事・季節の壁絵など一緒に行っている。)		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、家人が野菜・絵手紙を持って遊びに来られたり、封書や年賀状でやり取りをして楽しんでいる。又時には電話にて、相談をうけることもある。又家人の定期的の訪問は嬉しく有難いです。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常に日常生活を過ごしている中、ご本人の希望・意向を伺い意思決定をしていただいている。また会話が困難な方には、ご本人の言動や生活の中から想いを汲み取るように努めている。</p>	<p>利用者より思いや意向を訴えること、表現することが困難な状態の方は、家族の意向や利用者のこれまでの生活状況などを考慮し、利用者の立場に立ち思いや意向・希望を話し合い把握するようにしている。把握できた思いや意向・希望は、ケアプラン記録・生活記録などに詳細に記載し全職員で情報を共有しケアに生かすようにしている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時に生活歴や家人からの情報を得て、ご本人の話しを基になじみの暮らしや環境の把握に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>現在の心身の状態を知り、1日の記録に詳しい様子を記入し、把握できるように努めている。又どのような想いで生活しているかを感じ取り暮らす易い方向へと努めている。</p>		
26	(13)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ご本人・家族・職員と話し合いそれぞれの意見を聞き、本人の介護計画、ケアが出来るように努めている。またモニタリングを行い支援状況の確認を行い状態の変化等あれば速やかに対策を講じている</p>	<p>毎月のケア会議の中で全利用者の状態の変化や状況を話し合い、モニタリング・担当者会議を行い計画の作成・評価・見直しを実施している。利用者の日々の生活状況やケアプランに沿った支援内容の記録及び、ケアプランの実施状況を毎月のケア会議で、利用者の状態の変化や状況を話し合い利用者の変化を見逃さないように取り組んでいる。また、毎月の利用者の状況や変化を「ケアの状況」として担当者がまとめている。ケアの状況から利用者への予防的な関わりが持てるように食事や排泄・移動・入浴など日々の生活の中で予測されるリスクについての支援をケアプランに反映させるようにもしている</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日中・夜間の様子を事細かく記入し、心身の変化や希望等の状況や気づきを誰が見ても解るようにしている。そのことを伝えることで統一したケアを実践して行きやすい。介護記録の内容から一ヶ月の把握・計画の見直しに活用している。</p>		

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診では付き添い同行している。又利用者が入院する時には、家族が対応困難の時はまづ必要な入院支援などできることは行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での取り組みや行事などは、運営推進会議で自治会長・民生委員・包括支援の方から情報を又学校からは、FAXで得られている。参加している。又地域の方々やボランティアの方々による活動に触れたり、苑での取り組みなどを知って頂くことで協力し合い安全な生活につながっている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の嘱託医に・往診・又必要時の連絡をして往診・助言・指示を受けられている。緊急時の場合はいつでも電話連絡など対応できるようにお願いしている。又入院先の紹介までお願いしている。	2週間に1回の定期的な往診を受ける他、必要に応じて往診や受診を行い適切な医療を受けることができるように支援している。緊急時など嘱託医には、いつでも連絡が取れる体制が整えられている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りや会議の中で介護職が伝えられる環境を作り、報告・連絡・相談をして必要なケアをしている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、家族と相談して早期の段階で病院の関係者と情報交換が出来るように努めている。又必要時は優先的に受診・診断できるように配慮も受けている。	入院治療が必要な場合には、嘱託医に相談し適切な医療機関の紹介を受け、入院できるように支援している。入院になった場合には、サマリーを作成し医療機関への情報提供を行なっている。入院中は、家族が中心となり支援してもらっているが、定期的な面会や医療機関からの説明がある場合など家族と共に同席し早期に退院しグループホームでの元の生活に戻ることができるように支援している。退院時には、医療機関よりサマリーで情報提供を受けている。	

自己 者第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの研修を受けました。利用者がターミナル時期に近ずいた場合嘱託の先生・家族・職員で何回も話し合い、職員のできる事を説明し、利用者の安心した顔を見る事が多くなるようなケアをしている。又その都度・1週間単位で、家族の希望を聞きながら対応しています。	医療連携体制を整えており、利用者・家族の希望により看取りを行っている。契約時より事業所としての方針については、説明を行っている。また、利用者の段階に応じて家族の意向や希望を聴取し話し合いを繰り返し、家族・嘱託医との連携を図りながら看取りを行うようにしている。ターミナルケアへの理解を深め統一した方針で取り組んでいくために職員は研修を受講している。ターミナルケアについての方針については明文化している。	明文化されたターミナルケアについての方針は、現状に即しているか見直しを実施することが望ましい。
34	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について学習・研修を受けている。緊急時のマニュアルや対応についても職員全体に回覧・実施している。		
35	(17) 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にお願いして、他のグループホームと合同で火災訓練を行っている。災害時について研修に参加して、プリントを基に職員に報告している。日中・夜間の避難訓練を定期的実施している。近隣の方には消防訓練時には参加のお願いのチラシを配布している。	近隣のグループホームと合同で地域住民へも参加呼びかけを行い、防火訓練を実施している。今年度は、地域の消防団の参加へ向けての検討が行われている。神戸市西消防署より「地震時の避難について」の講義も受け、様々な想定での避難も検討され避難訓練が実施されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中親しく会話しているがその中でも、年配者には敬意を払った言葉掛けになるように留意している。又個別の内容は、居室で行い他者の耳に入らないようにしている。オムツ交換はカーテンで守り、トイレ誘導時も本人だけに聞こえる環境を整備している。	ケア会議の中での研修でプライバシーについても研修を実施し、職員への利用者のプライバシーの確保や尊厳を大切にケアの提供の徹底を図るようにしている。日々のケアの中で職員同士で尊厳やプライバシーに触れる言葉や対応が見られた場合には、注意し合える関係が構築されている。	
37	利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が不安な行動をする事は、利用者がどうしたいかを聞く。希望や日々どう過ごしたいか聞いたり、表情や言動から想いを汲み取り本人に決めてもらい希望に沿った支援に努めている。日々の食べ物も何が食べたい物・衣類の選びなども決めてもらっている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何か行動する時には、声かけをし、嫌がることは、無理強いせずその日の体調気分に合わせて個人個人に対応している。個人のできる事を役割としてもらっている。食事中は、BGMを聞きながら過ごしてもらっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院への希望がある場合利用者は、2ヶ月に1回美容師の方に来て頂き、おしゃべりや笑顔が多く、楽しまれている。又外出時、衣類を選ぶ時は、本人のこのみを優先と一緒に選んで頂ける様に支援している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか聞きメニューに取り入れている。その方の出来る事をして頂き皆で準備し、スタッフも共に行い食事をしている。利用者の方から「手伝おうか」と声掛けくださることもあり、無理強いする事無く会話しながら楽しく行っている	各ユニット毎に利用者の希望や季節を考えメニューを立て、利用者の状態や希望により買い物から調理、後片付けまで職員と一緒に毎日行っている。行事として外食の機会も持っており、食べることが楽しみとなるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	片よりの無いように献立を考えている。又食事・水分摂取量は、表を作り記入して、把握している。水分の不足している時にはその方の好みの水分を出したり声かけして水分確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に応じた声かけ、誘導、介助を行っている。週1度 ハブラシ、コップ、義歯コップの消毒洗浄も行っている。又食前には、嚥下体操を行っている。		
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が見られる様になると、職員で話し合い、排泄パターンを把握して、声かけを行うことで排泄の自信とトイレへ行く事の認識を持って頂ける様にしている。段階的に行っている。	排泄状況・パターンを把握し利用者一人ひとりの状況やパターンに合わせて声かけや誘導、適切な排泄用品の使用を検討し支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操、ストレッチを行い 水分 食物繊維の多い食べ物 ヨーグルトなどを日々食べていただき、必要な時に薬で対応している。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マンツーマンで入浴して頂いている。声かけしても嫌がられた時は、時間を置き再度声かけすることでスムーズに入浴してもらっている。洗身・洗髪などは、出来る事はして頂き、湯の中には、満足いくまで、浸かって頂き、その間も会話をして、楽しくはいつでもらっている。	利用者の希望や状態に合わせて見守りや介助を行うようにしている。利用者の希望や体調に合わせて時間や曜日に入浴ができるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を知り居室にて臥床して頂いたり、ソファで休憩して頂いたりしている。臥床・入眠前に不安発言聞かれる時には、傾聴し安心して頂き、休めるように温かい牛乳などを進めたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が今服用されている薬がわかるように効用・副作用・又朝・昼・夕・眠前の薬を表にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前一人ひとりの生活歴を家族の方に記入して頂きそれを基に趣味を取り入れたりしている。食材配達・散歩・編物・縫物・ピアノを弾いて頂き皆で合唱する・献立のメニューを筆ペンで記入し掲示板に貼ったり、カレンダーの交換などして頂いている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1ヶ月に1回利用者と共に外食にでかけたり買物・外出したり、年に一度は、遠足に出かけたりしている。お天気がいい時は、昼食後から2時間程度でドライブに行ったり、外食のない時は、喫茶店でている。	近隣の公園や周辺の住宅街への毎日の散歩ができるように支援している。帰宅願望の強い方などがあれば、適宜ドライブなども取り入れ気分転換が図れるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一回バンの購買日があり、買う・選ぶ楽しみを家族の了解を得て少しのお金を管理できるよう支援している。買物外出の際には、スタッフが見守りしながらレジにて支払いして頂いている。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望された場合 家族との声・話で混乱が少なくなればと何時でも会話して頂ける様回線を多く持っています。ゆっくり話して頂ける様に自室で話して頂きます。又年賀状も出しており家族・知人からの年賀状も楽しみになってます。		
52	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いている花を利用者と共に摘みに行き居室やリビングに飾り季節感を感じて頂ける様にしています。温度湿度計・加湿器も使用して快適に過ごして頂ける様配慮している。リビングにソファを置き、誰でも座って他者と談話できるようにしている。	玄関に花が植えられ季節感が感じられる、各ユニットの壁面には作品を飾り利用者、職員の個性が感じられる。室内はゆったりしたスペースがあり清掃が行き届き、親しみやすい雰囲気の中で落ち着いて過ごせるよう配慮されている。また、共有スペースは明るく通気性も良く静かな環境が整っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人ひとりの席がありゆったり座って過ごせるソファでは3~4人座り、楽しく過ごされ、ピアノの横にはイスがあり弾く人がいれば横に座り歌を歌われる人も居りそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の面会時に、いつも読まれていた新聞や本をもってこられる。又入居時、自宅からなじみの物を持ち込まれている。各居室にコルクボードを設置しており、家族の写真や、ホームの写真貼っていつでも見れるようにしている。	利用開始時から使い慣れた道具や趣味の品を持ち込んでいただき、利用者が入居しやすく過ごせるように配慮されている。利用者の希望や身体状況などに合わせベットや畳に布団を敷くなど利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「できないこと」のアセスメントを行い又職員は周知して、できる事・できるかもしれない事を見守り・一緒に行くことで不安のない安心した生活環境を整えている。また、車椅子利用されている方でも立位出来る方は、トイレ誘導している。		